

～今後の管理のポイント～

- 収量・品質向上のために追肥を行いましょう。
- 赤かび病防除を徹底しましょう。
- 排水対策を徹底しましょう。

1 気象経過

- 気温は期間を通して高温で推移しました。
- 日照時間は3月第5半旬，4月第2半旬に寡照となりましたが，他の期間は平年並から多照で推移しました。
- 降水量は3月第6半旬に合計34mm(平年差+21mm)と多雨になりましたが，他の期間は平年並から少雨で推移しました。

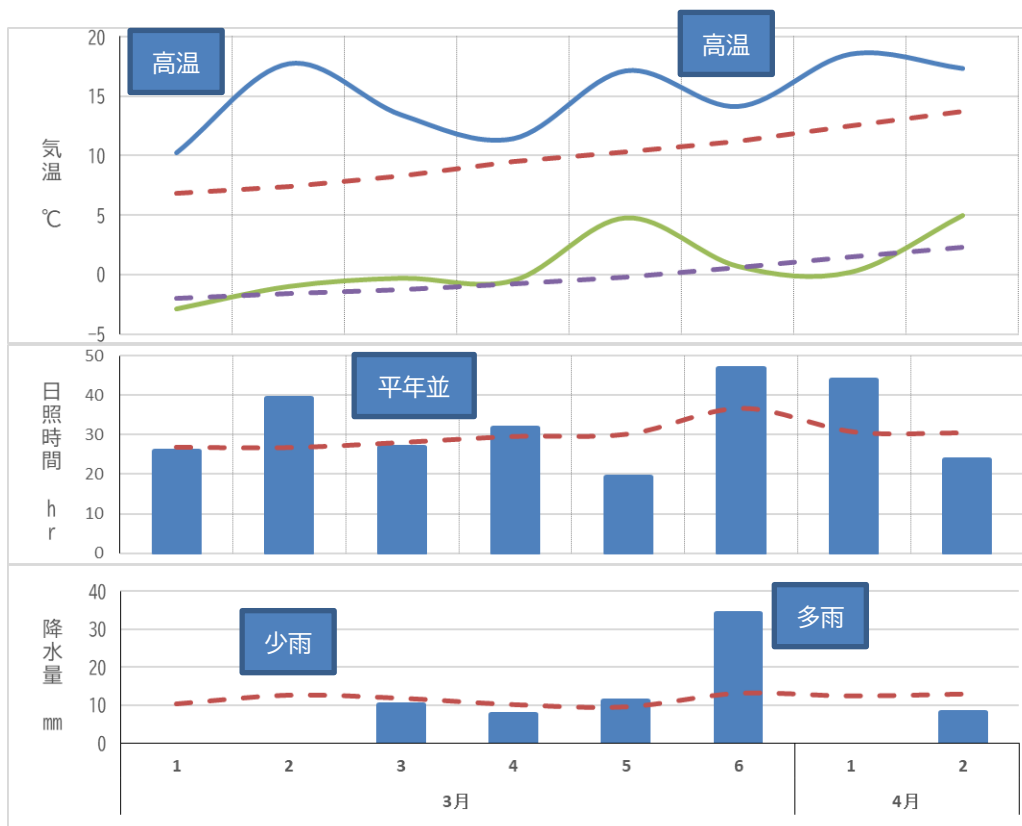


図1 気象経過 (古川アメダス)
※実線又は棒グラフが本年値，点線は平年値。

2 生育状況(4月10日現在)

(1)小麦「シラネコムギ」

- 生育量は、草丈が 38.0 cm (平年比 183%)，茎数が 936 本/m² (平年比 100%) と平年を上回っています。
- 幼穂長は 11.7 mm (平年差 +9.4 mm) と過去 10 年で最も生育が進んでいます。
- 雑草の発生は見られませんでした。

表1 「シラネコムギ」生育調査結果

地区名 品種名	播種日			草丈 (cm)			茎数 (本/m ²)			幼穂長 (mm)		
	本年	前年差	平年差	本年	前年比	平年比	本年	前年比	平年比	本年	前年差	平年差
古川 シラネコムギ	10/23	-7	-2	38.0	221%	183%	936	62%	100%	11.7	+9.4	+9.4

※1 平年差 (比) は、過去5か年 (平成30年~令和4年産) の平均値との比較

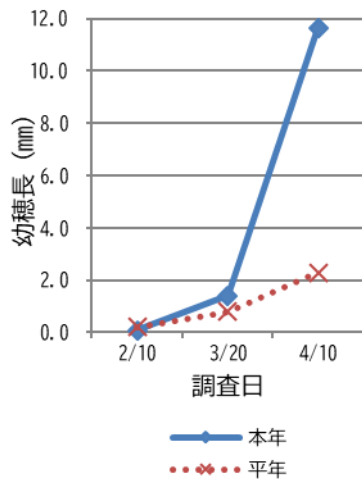


図2 生育調査ほにおける幼穂長の推移



写真1 幼穂

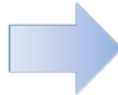


写真2 生育状況 (左: 3月20日調査, 右: 4月10日調査)

(2)大麦「シュンライ」

- 冬期間の野鳥による葉の食害から回復の傾向がみられました。
- 幼穂長は 31.3 mm であり、生育ステージは減数分裂期になります。

表2 「シュンライ」生育調査結果

地区名 品種名	播種日		草丈 (cm)		茎数 (本/m ²)		幼穂長 (mm)	
	本年	平年差※	本年	平年比※	本年	平年比※	本年	平年差※
古川 シュンライ	10/15	-9	38.7	277%	693	162%	31.3	+30.8

- ※1 古川地区の「シュンライ」は令和5年産より調査を開始した。
 ※2 平年差(比)は、三本木地区の「シュンライ」(平成25~29年産)の平均値との比較であり、参考値として掲載している。



写真3 幼穂

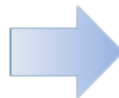


写真4 生育状況(左: 3月20日調査, 右: 4月10日調査)

3 今後の生育ステージの見通し

- 「シラネコムギ」の今後の生育ステージは、減数分裂期が平年より11日早い4月21日頃、出穂期が9日早い5月1日頃と予測されます(表3)。

表3 「シラネコムギ」幼穂長による生育ステージ予測

地区名 品種名	播種日			減数分裂期			出穂期			開花期
	本年	前年差	平年差	本年予測	前年差	平年差	本年予測	前年差	平年差	本年予測
古川 シラネコムギ	10/23	-7	-2	4/21	-12	-11	5/1	-10	-9	5/13

- ※1 平年差は、過去5か年(平成30年~令和4年産)の平均値との比較
 ※2 普及に移す技術第91号(麦類の生育ステージ予測シート)をもとに予測

- 「シュンライ」は4月11日に減数分裂期となりました。今後の生育ステージの予測は、出穂期が4月28日頃と予測されます（表4）。

表4 「シュンライ」幼穂長による生育ステージの予測

地区名 品種名	播種日		減数分裂期		出穂期		開花期
	本年	平年差※	本年	平年差※	本年予測	平年差※	本年予測
古川 シュンライ	10/15	-9	4/11	-13	4/28	-3	5/5

※1 平年差は、三本木地区の「シュンライ」（平成25～29年産）の平均値との比較であり、参考値として掲載している。

※2 普及に移す技術第91号（麦類の生育ステージ予測シート）をもとに予測

4 今後の管理

(1) 追肥

幼穂長や葉耳間長を確認し、適期の追肥を行いましょう。特にこの時期は幼穂長が1日で5mm程度伸びるので、適期を逃さないように注意しましょう。

表5 「シラネコムギ」追肥時期と施肥量の目安

追肥の時期	幼穂形成期 (幼穂長2～3mm)	減数分裂期 (幼穂長30～50mm)	穂揃期 (8～9割出穂)
目的	有効茎歩合増加 (穂数の確保)	一穂粒数の増加 登熟良化	子実タンパク質含有率 の向上
追肥時期	3月下旬～4月中旬	4月下旬～5月上旬	5月中旬
N成分量 (kg/10a)	2.5	2.5～5	2.5
硫安の場合 (kg/10a)	12	12～24	12
尿素の場合 (kg/10a)	5.4	5.4～11	5.4

表6 「シュンライ」追肥時期と施肥量の目安

追肥の時期	起生期 (越冬後、茎葉が再び生長を 始める時期)	幼穂形成期 (幼穂長2～3mm)	減数分裂期 (幼穂長30～50mm)
目的	低温期に葉色低下した 場合の株直し	有効茎歩合増加 (穂数の確保)	一穂粒数の増加 登熟良化
追肥時期	越冬後早期	3月中旬～3月下旬	4月中旬～4月下旬
N成分量 (kg/10a)	1(黄化少ない)～2(黄化目立つ)	2～2.5	2～2.5
硫安の場合 (kg/10a)	4.8～9.5	9.5～11.9	9.5～11.9
尿素の場合 (kg/10a)	2.2～4.3	4.3～5.4	4.3～5.4

【減数分裂期の判断方法】

減数分裂期の目安は、幼穂長がおおよそ30～50mmであり、止葉葉耳間長から幼穂長を推定し、減数分裂期の追肥時期の目安とすることができます。

「シラネコムギ」では「4～5割の茎が止葉葉耳間長±0mm以上に達したとき」、
「シュンライ」では「2割程度の茎が止葉葉耳間長±0mm以上に達したとき」が追肥の目安となります。

幼穂長	30mm	40mm	50mm
葉耳間長	-30mm	+3mm	+30mm
葉耳間長の形態的推移			

図3 「シラネコムギ」葉耳間長の形態的推移

(2)赤かび病防除

● 赤かび病とは？

赤かび病は、穂の一部あるいは全部が褐色となる病害です。発生源は、主に汚染種子内の菌糸や被害わら、こぼれた麦上に形成された病原菌（子のう殻）です。赤かび病は開花期が最も感染しやすく、開花期に降雨が多いと発生しやすくなります。

● 赤かび病の防除体系

赤かび病防除は2回の薬剤防除が基本になります。1回目の防除は「開花始期～開花期」、2回目の防除を「1回目の7～10日後」に行いましょう。2回防除後に降雨が続く場合は、蔓延のおそれがあるため追加防除を行いましょう。

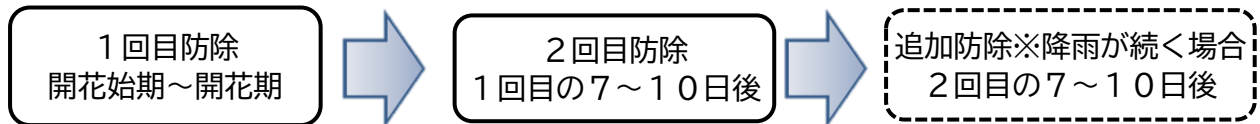


図4 赤かび病防除体系

(3)排水対策

麦は湿害に弱い作物です。節間伸長期から登熟期にかけては特に要注意で、一般に地温が上昇してからの被害は大きくなります。ほ場に水を停滞させないように排水対策を徹底しましょう。

- 明きよ…手直し、管理機等で溝を作り、排水口まで繋げましょう。
前作水稲ほ場では、稲わらが排水口に詰まっていないか確認しましょう。
- 暗きよ…栓が閉じられていないか再確認しましょう。
- 湿害の影響
 - 節間伸長期～出穂
根の機能障害、弱小分げつの枯死、穂数の減少、穂の縮小化
 - 出穂期以降
粒の充実不良のため千粒重が軽くなり、収量・品質が低下、稈の伸長抑制

東北地方 1 か月予報

(4月15日から5月14日までの天候見通し)

令和5年4月13日
仙台管区气象台 発表※抜粋

<予想される向こう1か月の天候>

東北太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

		低い(少ない)	平年並	高い(多い)
【気温】	東北地方	10	30	60
【降水量】	東北地方	30	30	40
【日照時間】	東北地方	40	30	30

<気温経過の各階級の確率(%)>

		低い	平年並	高い
1 週 目	東北地方	10	20	70
2 週 目	東北地方	30	50	20
3～4週目	東北地方	30	30	40

◆◆◆◆◆◆◆◆農作業安全確認運動(3月1日～6月30日)◆◆◆◆◆◆◆◆

宮城県の農作業死亡事故の過半数はトラクターが原因となっています。安全フレーム・キャブ付きのトラクターを使用し、シートベルト・ヘルメットの着用を徹底しましょう。

令和5年スローガン 「徹底しよう！農業機械の転落・転倒対策」

「大崎地域の稲作技術情報」,「大崎地域の大豆作技術情報」,「大崎地域の麦作技術情報」は、当普及センターのホームページでもご覧いただけます。インターネットで「大崎農業改良普及センター」と検索または右のQRコードを読み取ってください。

